

保育環境を創造する保育者の受容的・応答的な身体スキルを育む教育実践の試み－舞踊家の創造的活動を支えた教育プログラムを応用して－

白澤 舞 （長野県立大学）

子どもの主体的・対話的で深い学び充実のため、保育者は子どもの何気ない表情や行動を見取り、身体的行為によって受容的・応答的に関わることで、子どもと協働してよりよい保育環境を創造する役割を担っている。子どもと関わる保育者の基本姿勢として身体の在り方や身体的行為が重視され、子どものあらゆる行動を表現として捉え、気づき、受容・応答できる保育者の身体スキルの重要性が指摘されてきた。その重要性を身をもって理解し実践する力を身につけた保育者を養成する教育法の整備が喫緊の課題となっている。本研究では、子どもと協働して保育環境を創造する保育者に求められる受容的・応答的な身体スキルを、学習者が体感を通して理解し体得することができる教育内容と方法を検討するため教育実践を行った。

発表者はこれまで、舞踊家 Trisha Brown (1936-2017)の旺盛な創造的活動を支えた要因に着目し、教育プログラムの調査研究を行ってきた。教育プログラムでは、人が生来持つ身体感覚を取り戻し高めるため、多様なボディワークのテクニックを用いた身体訓練法と、気づきを与える動きの課題（以下、ワークと呼ぶ）を行い、周囲の人や環境との双方向的な応答と他者との協働ができる身体を習得させていた。

この教育プログラムを応用し「保育者の基本姿勢（受容・応答・共感）について身体を通して考える」をテーマに①ワークと②身体訓練法と③記録シートから成る教材を作成し、保育者養成校の学生と保育者を対象に教育実践を行った。具体的には、①ペアで向き合い前後左右への移動を模倣し合うというワークを、②自己の身体への意識を高め、身体の使い方を学習する身体訓練を行う前後に実施し、③各ワーク実施後に5つの質問項目について5段階の評価尺度で記録を行い、最後に活動の振り返りを自由記述で記録するという手順で構成した。

記録シートを検討すると、質問項目への回答では、身体訓練を行う前後で肯定的な項目への評価が上昇した。活動後の自由記述からは、他者と同調して動くことの意味やどうすれば動きに気づき応答することが出来るようになるのかについて、体感を通して理解したことが伺えた。今回の試みにより、舞踊家の教育プログラムを保育者の受容的・応答的な身体スキルを育む教育法へ応用することが有用であると考えられた。今後、試行と改善を重ね、理論と実践を往還する身体スキルを育む教育法についてさらなる検討が必要と考えている。